

# 横綱若ノ嶋の奮起を期待

先々場所は中途休場、先場所は全休と今年初めて出場し、皆勤となった今場所。序盤から精彩を欠き、終わってみれば千秋楽のようにやく勝ち越すと、お粗末な結果となってしまった横綱若ノ嶋。

九日目の大神楽、十日目の西神門の大関戦を見ていて、大神楽戦は熱戦を演じたものの西神門戦はいいところがなく一方的に押し倒され完敗。若い大関に簡単に負けるといふところに、見ていて不甲斐なさを感じる。若い力士をたたきつけるぐらいの気迫をもって、いま一度鍛えなおして、来場所は四横綱時代にふさわしい強さ激しい取り口で優勝を見せていただきたい。

三賞は初日、二日目と両横綱、三日目には大関西神門を破り殊勲賞に加え、九勝二敗で最後まで優勝争いを演じた小結鬼ヶ嶽が殊勲賞と敢闘賞のダブル受賞。大関復帰への足固めに来場所も期待が寄せられる。

敢闘賞はこれまた平幕ながら千秋楽まで優勝争いに残っていた夢ノ花が初受賞、今場所は寄りも冴え技能相撲に磨きがかかり、今後も期待したい。

技能賞は七日目に不利な体勢から逆転の上手投げで横綱千代鈴に勝ったのが評価され受賞となった磯自慢。地力がついてきて来場所の三役入りが濃厚なだけに進化すると思われる。(霧ヶ浜)

## 十両は櫻吹雪が悲願の初優勝

二敗の櫻吹雪、大石丸、玉乱の三名が、優勝争いを引っ張る展開で迎えた最終開催日。

八日目に二敗で並べられたが最後まで先頭を走っていた櫻吹雪が二敗を守り切って大混戦を制し十両優勝とともに新入幕をほぼ手中にした。この吉報はこの日初本場所観戦に訪れていた大松戸親方からすぐさま住之江親方に伝えられ住之江親方は大いに喜んでいたので。

九日目を走り終えて二敗で先頭を走る櫻吹雪、十日目は優勝争いに絡む三日目の千丈岳と対戦。立ち会い直後に千丈岳がのど輪を差したタイミングですぐさまのど輪を返し押し倒し倒して退け先頭は譲らず。



千丈岳●(押し倒し)○櫻吹雪

迎えた千秋楽の相手は三敗の若雲山との一番。二敗で並んでいた大石丸が三敗、玉乱は四敗と後退し勝てば櫻吹雪の優勝が決まる一番。地方部屋の力士とあって周りの親方からも櫻吹雪を応援する声飛び立ち上がった。

激しい差し手争いから、若雲山が向正面に寄ったところで両者の体が落ち取り直した。今度は差し手争いから強烈な右の押付けから攻めのど輪を差した櫻吹雪が、踵立ちで粘る若雲山を土俵中央で押し倒しに破り優勝を決めた。



櫻吹雪○(押し倒し)●若雲山

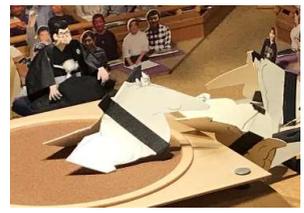
入幕を狙う上位陣は筆頭の西の富士、角武蔵共に負け越しとなり、来場所の巻き返しに期待がかかる。優勝した櫻吹雪に続き八勝の大石丸、七勝の鹿麒麟、西旭が入幕候補だが果して結果は如何に。

新十両の五力士の結果は磯蛭、玉乱、千丈岳が揃って七勝を挙げたが虹ヶ谷、逆元春の錦風の二人は負け越しとなった。下位陣からは柏陵山、逆起、太刀鳳、磯日丸、虎ノ國が幕下へ陥落する事となった。(香具山)

## 幕下は音柱、春日根強し

幕下で優勝を勝ち取ったのは、この日急遽不参加だった親方にいい知らせをと頑張った音柱。連日安定した左からの寄りを見せ、十両昇進と合わせて春日根親方に朗報が届けられた。

千秋楽、この音柱と戦ったのは先場所の千丈岳に続き磯ノ海部屋連覇をかける風神丸。しかし、その思惑も音柱の牙城は崩すことは叶わず。先場所の玉乱に続き次場所は音柱が十両昇進と他の部屋と何とも羨ましく限り。東筆頭の西安も新たな力士が次々と上がってきた。



音柱○(押し倒し)●風神丸

風神丸が活躍を見せた磯ノ海勢の中で、もう一人あまり目立つことなく頑張ったのが磯雷光。その磯雷光が樺富士を下し4勝目を上げて来場所の十両入りが濃厚。他の4人は負け越しとなり、特に吉備の里は5戦全敗と明暗を分けた。

他の十両入りは桐壺の樺富士と御嶽灘に黒田の3人。中でも黒田は待ちに待った昇進とあって、香具山親方も「当たり負けするな、ガツンと行け」といつもの檄を飛ばし、西安を下した瞬間は安堵の表情を見せてご満悦。

秋田勢は難波山と千曲海は惜しくも負け越ししてしまったが、達子波は付け出しから3場所連続の勝ち越しを果たし、いよいよ来場所は関取挑戦をかける場所となり益々注目度が上がって行きそう。

大松戸部屋の出雲山が親方の見守る土俵で磐若を下し嬉しい4勝目の白星をゲット。初めての本場所観戦で愛弟子の勝利に親方衆から握手で祝福「3勝と4勝じゃ来場所の番付が違ってくるよ」と出雲山の来場所の活躍にも期待を寄せていた。

そんな中、若手のあおりを食ってとうとう幕下尻まで追いやられた元幕内の電幕が今場所限りで土俵を去る。第二の人生は明言されていないが、ちゃんこ料理屋に転身か、はたまた四股名の由来にもなった故郷のデパートに帰ることになるのか、今後師匠との話し合いがもたれそう。(勝間田)

# 三段目、序の口

三段目の全勝力士はともに錦風部屋のため全勝対決とはならず、番付上位の1敗力士との割に。ともに負ければ1敗祭りとなるとこの



栃尾山○(寄り切り)●片貝



逆青雲○(寄り切り)●里の若

ろだったが、栃尾山は片貝を、逆青雲は里の若を下して同部屋での優勝決定戦に。

勝負は栃尾山が一口气の寄りで逆青雲を破り、勝間田親方が先場所「最強」と評したとおり大器の片鱗を見せた。



栃尾山○(寄り切り)●逆青雲

序二段は先場所序の口優勝し、ここまでの9連勝と負け知らずの鏡島と先場所鏡島に敗れている人気力士の福笑。鏡島有利とみられていたが、「福笑が上手い相撲で左差しから寄り切って先場所の借りを返した。



鏡島●(寄り切り)○福笑

序の口はここも錦風旋風が。先場所も錦風山里対決を制して逆本が優勝を果たした。



逆本○(押し倒し)●庄内

この逆本は十両の逆元春の実弟。兄が九なら弟は十と名付けられたことで話題となり、思わず注目目に錦風親方も驚きを隠せない様子だ。(鹿賀乃戸)



逆本○(押し倒し)●庄内